

生涯学習だより



さと ところ
郷心〜「郷土に学ぶ【なつ】」……ほこれる郷土」

〜かみしほろの健やかな育ち〜

年間テーマ 「ささえあいの地域づくり」

【特集】非常時のささえあい

◇ 過去から学ぶ ◇

近年、酷暑やゲリラ豪雨、台風、地震など、いろいろな異常気象や災害が全国各地で起きています。そして、これらの災害は、上土幌町に住む私たちにも無関係なものではありません。平成23年に猛威をふるった台風12号が、ぬかびら源泉郷に大雨をもたらしたことは記憶に新しいと思います。

上土幌町の過去の災害を見ると、地震や火山の被害はそれぞれ数えるほどしかありませんが、風水害や雪害はかなりの頻度で起きています。低い土地の浸水害も多く、床下・床上浸水も何度か発生しています。写真は、平成19年6月の大雨による浸水害の状況です。



押し寄せる水を土嚢で防ぐ

平成15年8月の台風10号では、おりからの大雨により増水した川の水により、居辺川にかかる東居辺橋が崩壊しました。橋のたもととの盛り土がえぐられて、崩落したところに通りかかった乗用車が落ち、5名の死者を出す大惨事となりました。



崩落した東居辺橋

また、居辺川だけでなく、音更川にかかる橋も増水によって流されたことがあります。昭和56年の豪雨の時には、音更川にかかる萩ヶ岡橋・中央橋・上土幌橋が崩壊しました。死傷者はなかったものの、強い雨の時には浸水害や河川の氾濫、鉄砲水にも注意が必要です。

過去には国有林の林野火災や住宅・店舗の火災などで大きな被害が出たこともありますが、平成に入ってから大きな火災は少なくなりました。

防災には、日々の心構えが大切です。起り得る災害を把握し、個人ができることを想定しておきましょう。災害が発生したときは、まず自分の命を守ることが第一です。自らの命を自らで守ることが、非常時には必要であり、助け合いの大事な一歩になるのです。

町内で過去にあった災害を知り、災害時のささえあいについて考えるきっかけとしましょう。

【特集】非常時のささえあい

めざせー!

防災博士

7月29日(月)～31日(水)に航空公園キャンプ場でかみっ子ふるさと体感塾「ふるさと防災キャンプ」が行われ、小学3年生から6年生の35名が参加しました。

この事業は、水や火、電気などを制限して生活を行うことで資源の大切さを再認識させ、災害時の応急処置などを学ぶことで子どもたちの防災意識を高めて、「生きる力」を育むことを目的に、上士幌消防署やNPO法人ひがし大雪自然ガイドセンターなどの協力を得て行なわれました。

1日目の防災学習では、東日本大震災や阪神淡路大震災の映像を見ながら災害について学び、災害が起こったときの自分の身の守り方などを、上士幌消防署の方と一緒に考えました。

2日目の午前には、前日に学習したことをクイズ形式でふりかえり、煙体験や身近なものを使って担架や、食器を作りました。作った食器を昼食で使用した子どもからは「意外とちゃんと使える食器でびっくりした」という声が聞かれました。午後の活動では、柳の枝でマイ箸を作り、夕食時に使いました。



マイ箸づくりの様子



固定及び担架づくりの様子

3日目の朝食は、社会福祉協議会で所有しているレスキューキッチンを使って豚汁を作り、役場で備蓄している非常食のアルファ米を食べました。その後、生涯学習センターに戻り、3日間のまとめとして防災検定を行い、消防署の方から修了証をいただきました。子どもたちは雨の中、航空公園キャンプ場でテントを張り、まさに「防災」を体感した3日間でした。

備えあれば

憂いなし

夢気球 (菅原昌三代表)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、地震、津波、原発事故と今までに経験したことのない大きな災害でした。

2年以上経った現在も、被災地では厳しい状態が続いていますが、日本の各地では防災についてさまざまな取り組みが行われています。

わが町の災害支援ボランティア団体「夢気球」(菅原昌三代表)は、大震災発生以前の平成19年に発足しました。災害支援におけるイベント協力他、行政区や、ふれあい広場等で毎年、レスキューキッチン(上士幌町社会福祉協議会所有)を使い、多くの方々に料理を提供してきました。

レスキューキッチンは、電気やガスの供給が停止してしまうような状況にあっても、灯油とガソリンを使用し約100人分の炊飯が30分程度で炊き上がります。また、炊飯だけでなく、汁ものや煮物、炒め物、蒸し物の調理にも優れ、被災した方々に「温かい食事」を提供することが出来ます。

冬季はもちろん寒くなくても「温かい食事」は心もからだも疲労した被災者を勇気づけてくれます。

実際に先の大震災でも「温かい食事」を摂りたいと訴える被災者の声が多く聞かれました。もしもの災害時に、速やかに支援、援護が行われるようボランティア団体「夢気球」は14名の会員で活動しています。

(成田)



レスキューキッチンでぶた汁調理中



ボランティア団体「夢気球」のみなさん奮闘中!

《子どもたちの活動》

がみつ子ふるさと体感塾 子供リポーター探検隊



子ども達に上土幌ならではの体験を、という皆さんの町民の皆さんの思いに支えられて実施している「がみつ子ふるさと体感塾」は、今年も春夏秋冬に1回ずつ、年4回の活動を予定しています。1回目は6月22日、23日に「自分たちのまちのことを、知らない人に伝えてみよう」という目的で、「子どもリポーター探検隊」が結成されました。

1日目は、4班にわかれて、ひがし大雪自然館・ぬかびら源泉郷・ナイタイ高原牧場・しんむら牧場について学び、取材先の情報を集め、原稿を書きました。STVラジオの内山佳子アナウンサーからアドバイスをいただき、一生懸命書いていました。2日目は、その原稿をもとに取材を行いました。自分達が創り上げた原稿を、気持ちを込めて読み、取材先に思い切った質問をして、見事大役を果たしました。

子ども達は、リポーターとなってラジオ出演し、7月の毎週金曜日「どさんこラジオ」で全道に放送されました。

放課後子ども対策 おりがみ教室

7月17日(水)に、生きがいセンター「きずなの会」の方々と、上土幌小学校の児童が一緒におりがみでピエロを作りました。

この事業は、放課後の子どもの安全で安心な居場所づくりや、地域の子どもの地域住民で育てる意識の醸成・住民参画の場を図ることを目的に行われています。今年度は計11回の活動が予定されており、初回のおりがみ教室は17名の児童が参加しました。

「きずなの会」の方々は優しく教えてくださり、ピエロには、おりがみだけでなくビーズやスパンコールなども使いました。

参加した子どもからは、「自分の作ったピエロをお母さんにプレゼントしたい」「もらったピエロはかわいいから家に飾っておく」などの声が聞かれ、おりがみ教室は和やかな雰囲気になりました。

最後にピエロを持ち集合写真を撮りました。



第2回子ども夏まつり

上土幌町少年会育成委員連絡協議会は、7月27日(土)に第2回子ども夏まつりを開催し、約200人の子どもたちが集まりました。

縁日などのお祭り気分を楽しむ機会が少ない本町で、夏休みの思い出を作っておきたいということから昨年より始めた企画です。参加した子ども達には三百円分の商品券が配布され、誰でも楽しめる環境を作りました。

当日は、かたぬきや射的、くじ引きなどの遊びの屋台や、かき氷、フランクフルト、焼鳥などを提供しました。また、上土幌中学校吹奏楽部やナイタイ高原太鼓響(きょう)の演奏、アトラクションとしてラムネの早飲み大会や一本橋渡り、魚のつかみどりを行い、おおいに盛り上がりました。つかみどりをした魚は、その場で焼いて食べることもでき、子どもたちは自分でとった魚を嬉しそうに食べていました。



私流の生涯学習

幸せな時間を紡ぐ

杉田 宏子さん (16区)



私は、小さい頃から布や糸が好きで、祖母の隣で着物の端布をもらい、思いつくままチクチクと何かを縫っていました。

大都会の雑踏の中で服飾の仕事をしていましたが、その後、福祉関係の仕事に移りました。退職したら、晴れた日には、畑を耕し採れた野菜を食べ、雨が降れば針仕事をするといった自給自足に近いのんびりした生活をするのが夢で、自分流に「晴耕雨縫」と名付けました。

上土幌には、広い大地や青空、まさに北海道という景色が広がり、大空に浮かぶバルーンを見たり、

パークゴルフが好きで年に何回か来ていました。縁あって上土幌に移り住み、間もなく3年になりました。好奇心旺盛といいますが、じつとしておられずあちらこちらと歩きまわっています。

タンズや押し入れの中で眠ったままになってはお着物に、思い切つてハサミを入れ、洋服や、帽子、バック等にリメイクするとワクワクします。これから寒くなる。と家の中にこもりがちになります。興味があるが1人では不安と思つている人も、私と一緒に、チクチクしながら楽しい時間を過ごしませんか。

(大友)

いつまでも健康でいるために！

大山 ^{ありお} 在雄さん (1区)



私が水泳を始めたきっかけは、5年前、町の健康診断でメタボと診断されたことです。保健師から「このままだと糖尿病になる。なつたら戻れないがまだ大丈夫。」と言われました。妻に水泳を勧められ、教育委員会主催の水泳教室に参加しました。最初は全く泳げず、ビート板を使ってバタ足の練習、クロールなど水に慣れることから行いましたが、3日間では泳げるようになりませんでした。その後プールの通い、1ヶ月で25mを往復できるようになり、体重も8kg減の64kgとなってメタ

ボも解消されました。上土幌のプールがオープンしてない時期は、音更のプールに週1〜2回通っています。また冬季はスキーもしています。水泳を始めてから風邪をひかなくなり、病院に行くこともなく薬も飲みません。水泳はストレス解消になり、朝までぐっすり眠れるなどいいことづくめです。今後はゆつくりのんびりと、毎日1〜2時間2000mを泳ぎ続けたいです。

(田中)

情報委員の

おすすめスポット

7区にある熱気球ふるさと公園は、噴水公園の愛称で親しまれており、暑い日には水遊びを楽しむ子ども達の元気な声が響きます。

使われていなかった廃線跡地と4名の方の土地の寄付により、「気球の町」を伝える場所を「水と親しめる公園」という地域の方々の思いから整備されました。町と町民の方たちと一緒につくった公園は町内では珍しいそうです。

住宅地の中にありながら広い芝生と沢山の木々に囲まれた公園は、気球の歴史や上土幌と気球の出会いについて書かれたパネル、気球をモチーフにしたベンチなどが設置されており、のんびりとした時間が流れる、私のおすすめスポットです。(春口)



町内で唯一、噴水のある公園